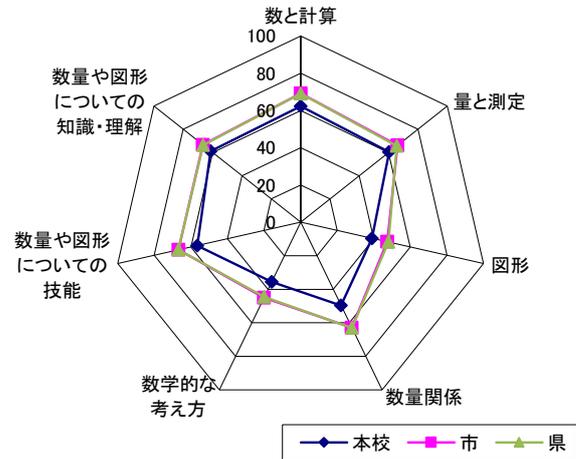


宇都宮市立宝木小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	62.3	69.2	69.1
	量と測定	60.4	66.1	65.6
	図形	39.1	47.4	48.0
	数量関係	49.7	62.9	63.1
観点	数学的な考え方	35.6	45.1	44.6
	数量や図形についての技能	56.5	66.8	66.8
	数量や図形についての知識・理解	61.3	66.6	66.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、県の正答率と比べて低い。</p> <p>○小数や分数の大きさを捉えることがよくできている。「小数や分数の大きさを考える」等、授業の目標の共有化を学校全体で推進している成果である。</p> <p>●3位数×2位数=5位数の乗法の計算や余りのある除法の計算の答えを確かめること、数直線上で万の単位の数を読み取ることについて課題が見られる。</p>	<p>・今後も図や数直線など様々な方法を用いて分数や小数の大きさを捉える活動を充実させ、今後学習する仮分数や帯分数、小数の意味や大きさの理解が図れるようにする。</p> <p>・乗法や除法の計算、確かめの仕方については、計算の仕方について理解が図れるよう、丁寧に指導する。また、朝の学習や家庭学習等で、練習問題に取り組ませる。さらに、数直線を用いて数を表す学習活動を適宜取り入れていく。</p>
量と測定	<p>平均正答率は、県の正答率と比べて低い。</p> <p>○はかりに示された重さを読み取ったり、分と秒で表された時間を秒の単位に換算したりすることがよくできている。様々な物の重さを測る等、体験活動を大切にしている取り組みを学校全体で推進している成果である。</p> <p>●算数の教科書1さつのおよその重さを選ぶ、量感を使うことについて課題が見られる。</p>	<p>・今後も体験活動を取り入れた学習を充実させ、今後、学習する立体の構成要素や特徴、面積や体積の求め方等を指導する際にも、体験をもとにして考え、理解が図れるようにする。</p> <p>・量の感覚については、角の大きさについて90°より大きいかどうかを判断させたり、身の回りにある正方形や長方形の面積を実際に調べたりする等の活動を通して、角や面積の大きさについての感覚を育てていく。</p>
図形	<p>平均正答率は、県の正答率と比べて低い。</p> <p>○円の直径をかいたり、正三角形をじょうぎやコンパスをつかって作図することができている。円周まで直径が届かなかったり、辺の長さを正確に合わせられなかったりする誤答も見られた。</p> <p>●円を利用してかいた三角形について、その理由を答えることについて課題が見られる。</p>	<p>・今後も基礎的な学習を大切に、辺の長さや円の直径、半径を意識し作図できるようにしていく。今後学習する「垂直、平行と四角形」では、三角定規やコンパスを使い丁寧に作図する方法の理解が図れるようにする。</p> <p>・円と球・三角形等の複合問題については、各単元を学習した際に、既習の学習と結び付けて考えられるような態度や理由を言語で説明する態度を育てていく。</p>
数量関係	<p>平均正答率は、県の正答率と比べて低い。</p> <p>○表や棒グラフから目盛りの大きさや内容を読み取ることができている。1目盛りの大きさを読み取ることや表を活用できない誤答も見られた。</p> <p>●乗法の式が表している意味を読み取ったり、□を用いた乗法の式に適した場面を考えたりすることについて課題が見られる。</p>	<p>・今後も児童の関心のある課題や理科の気温の変化等の必要感のある課題を取り入れて、目盛りの大きさに着目させながらグラフを用いて表したり読み取ったりするよさを味わわせていく。</p> <p>・式を読み取ることについては、乗法・除法の式の意味や、計算の仕方について意図的に取り上げ、理解を図っていく。今後、学習する「式と計算」や「変わり方」では、式と言語化した式の意味について結び付けて考える力を育てていく。</p>